

「(仮称) 横浜町風力発電事業環境影響評価準備書」に対する環境大臣意見

本事業は、コスモエコパワー株式会社（以下「本事業者」という。）が、青森県上北郡横浜町において、出力55,900kWの風力発電所を設置するものである。

今日の地球温暖化の危機的状況においては、再生可能エネルギーの主力電源化を進めることが不可欠であるが、再生可能エネルギーの導入拡大に伴い、景観や環境等への影響について地域の懸念が顕在化している。令和6年5月に閣議決定された第六次環境基本計画では、再生可能エネルギーの最大限の導入に向けた取組を加速化するとした上で、再生可能エネルギー発電設備の不適正な導入による環境への悪影響を防ぎ、地域の自然の恵みを損なうことなく地域の合意形成を図りつつ、地域共生型の再生可能エネルギーの積極的な導入を目指す必要があるとしている。

対象事業実施区域及びその周辺では、他事業者による非常に多くの風力発電所が稼働中又は環境影響評価手続中等であり、対象事業実施区域は累積的な影響を考慮することが重要な地域に位置している。

また、対象事業実施区域及びその周辺には複数の住居が存在しており、本事業の実施により、工事用資材の搬出入に伴う騒音が最大で13dB、建設機械の稼働に伴う騒音が最大で17dB増加する予測結果となっているほか、風力発電設備の稼働に伴う風車の影の予測結果が、複数の住居において、本事業者が参考とした諸外国のガイドラインの参照値を超過している。

さらに、対象事業実施区域及びその周辺では、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号。以下「種の保存法」という。）に基づき国内希少野生動植物種（以下「国内希少種」という。）に指定されているオジロワシ、クマタカ等の希少猛禽類の生息が確認されているほか、ノスリ、ハチクマ等の猛禽類の複数のペアの生息・営巣やガン・カモ類等の渡り鳥の飛翔が確認されている。

くわえて、対象事業実施区域及びその周辺では青森県の天然記念物である北限のゲンジボタルの保護活動が実施されており、対象事業実施区域の周辺に存在している「よこはまホテル村」では湧水を利用したゲンジボタルの保護増殖事業が行われていること等から、水環境の保全が重要な地域である。

以上を踏まえ、本事業の実施に当たっては、以下の措置を適切に講ずるとともに、その旨を評価書に記載すること。

1. 総論

事業実施に当たっては、以下の取組を行うこと。

（1）関係機関等との連携及び地域住民等への説明について

本事業計画の今後の検討に当たっては、関係機関等と調整を十分に行い、環境影響評価手続を実施すること。また、地域住民等に対し丁寧かつ十分な説明を行うこと。

（2）事後調査等について

ア 事後調査及び環境監視を適切に実施すること。また、その結果を踏まえ、必要に

応じて、追加的な環境保全措置を講ずること。

イ 上記の追加的な環境保全措置の具体化に当たっては、これまでの調査結果及び専門家等からの助言を踏まえ、措置の内容が十分なものとなるよう客観的かつ科学的に検討すること。

ウ 事後調査により本事業による環境影響を分析し、判明した環境影響に応じて講ずる環境保全措置について、検討の過程、内容、効果及び不確実性の程度について報告書として取りまとめ、公表すること。また、環境監視の結果、追加的な環境保全措置を講じた場合にも、可能な限り報告書に取りまとめ、公表に努めること。

(3) 累積的な影響について

ア 対象事業実施区域の周辺では、他事業による非常に多くの風力発電所が稼働中又は環境影響評価手続中等であり、対象事業実施区域は累積的な影響を考慮することが重要な地域に位置している。地域全体の環境影響の低減を図るため、可能な限り事業者間で調整し、必要な情報を共有することで、累積的な影響を考慮した事業計画とすること。

イ 他の事業者から累積的な影響の予測及び評価に必要な情報の提供依頼があった場合には、可能な限り情報を共有し、地域全体の環境影響の低減を図ること。

2. 各論

(1) 騒音に係る影響

対象事業実施区域及びその周辺には複数の住居が存在している。本事業の実施による工事用資材等の搬出入に伴う騒音レベルが最大で 13dB 増加し、建設機械の稼働に伴う騒音レベルが最大で 17dB 増加する予測結果となっており、本事業者が参考とした環境基準値は超過しないものの、現況値から大きく増加するとされている。

このため、工事の実施及び建設機械の稼働に伴う騒音による生活環境への影響を極力低減する観点から、防音・防振対策、工事工程の調整等の環境保全措置を講ずることにより、騒音による環境影響を極力低減するとともに、評価書段階での予測及び評価結果に基づき、騒音による生活環境への影響が生じる住居等に対して、環境保全措置及びその効果を含む十分な事前説明を実施すること。

(2) 風車の影に係る影響

対象事業実施区域及びその周辺には複数の住居が存在しており、風力発電設備の稼働に伴う風車の影については、事業者が参考とした諸外国のガイドラインの参照値を複数地点において超過している。

このため、風車の影による生活環境への影響を極力低減する観点から、評価書の作成までに、評価書段階での予測及び評価結果に基づき、環境保全措置を検討・実施すること。また、風車の影に関する事後調査を適切に実施し、その結果、環境影響が十分に低減できていないと判断された場合には、専門家等の助言を踏まえ、追加的な環

環境保全措置を講ずること。

(3) 鳥類に対する影響

対象事業実施区域及びその周辺では、種の保存法に基づき国内希少種に指定されているオジロワシ、クマタカ等の希少猛禽類の生息が確認されており、ノスリ、ハチクマ等の猛禽類の複数のペアの生息・営巣やガン・カモ類等の渡り鳥の飛翔が確認されている。対象事業実施区域内の一部の風力発電設備において、オジロワシ、ハチクマ、ノスリ等の年間予測衝突数が相対的に高い予測となっていることから、本事業の実施により、鳥類に対して移動の阻害、バードストライク等の重大な影響が懸念される。

このため、本事業の実施による鳥類への影響を回避又は極力低減する観点から、以下の措置を講ずること。

ア オジロワシ、クマタカ、ハチクマ、ノスリ等の年間予測衝突数が相対的に高い予測となっているT01、T07及びT09の風力発電設備やノスリの営巣地と近接しているT04の風力発電設備については、バードストライクの発生を低減するため、専門家等の助言を踏まえ、ブレード塗装、シール貼付等の鳥類からの視認性を高める措置や、特にノスリについて営巣地からの離隔の確保や代替巣の設置等の措置を稼働前から講ずること。

イ 鳥類の風力発電設備への衝突、移動の阻害等に係る環境影響評価の予測には大きな不確実性が伴うことから、稼働後のバードストライクの有無に関する事後調査を適切に実施すること。また、事後調査の結果、衝突や移動の阻害等、重要な鳥類に対する重大な影響が認められた場合は、環境保全措置に係る最新の知見の収集に努め、専門家等からの助言を踏まえ、ブレード塗装やシール貼付等の鳥類からの視認性を高める措置、渡り期や越冬期の稼働調整等の追加的な環境保全措置を講ずること。

ウ 稼働後においてバードストライクが発生した場合の措置の内容について事前に定めるとともに、重要な鳥類の衝突等による死亡・傷病個体が確認された場合は、その確認位置、損傷状況等を記録し、速やかに関係機関との連絡及び調整を行い、死亡・傷病個体の搬送、関係機関による原因分析及び傷病個体の救命への協力を行うこと。

(4) 人と自然との触れ合いの場及び水環境に係る影響

対象事業実施区域及びその周辺では、青森県の天然記念物である北限のゲンジボタルの保護活動が実施されており、対象事業実施区域の周辺に存在している「よこはまホテル村」では湧水を利用したゲンジボタルの保護増殖事業が行われていること等から、水環境の保全が重要な地域である。

このため、既存道路を活用するなど可能な限り土地の改変を抑制した上で、風力発電設備等の新設による切土工、盛土工等について、構造及び工法の検討や沈砂池、土堤及び素掘側溝の設置、維持管理等の濁水対策の検討を行うなど、適切に環境保全措置を講ずることにより、土砂及び濁水の流出等による水環境への影響を回避又は極力低減すること。

また、工事中において、河川、沢筋等に土砂及び濁水が流出していないことを確認

するため、環境監視を実施すること。環境監視の結果、土砂又は濁水の流出等が確認された場合には、関係機関等と協議の上、沈砂池の設置等の必要な措置を速やかに講ずること。